奥深い豪雪地帯で独自の生活を営む

石川 白峰 しらみね

白壁と黒茶の板壁 美しい町並みを歩く

平成24年（2012）、文化庁の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定された白峰地区。冬には数メートルもの雪が積もる豪雪地帯であり、深い奥山にあるため独自の建築様式や生活スタイル、風習などが受け継がれてきました。土蔵造りの家が並ぶなか、ひときわ目立つ黄土色の壁が印象的な家屋が見えますが、こちらは大庄屋の山岸家の建物。母屋と3つの土蔵を見ることができます。

貴重な歴史的遺産としては、「林西寺」の白山下山仏も見逃せません。僧が修業を重ねた白山には多くの仏像がありましたが、廃仏毀釈令によって破壊され、一部の仏像が麓の白峰地区や尾添地区に安置されたのです。

また白峰は山間地であることから耕作地が少なく、豪雪地帯ゆえに室内でできる養蚕が盛んでした。機織りの技術が受け継がれ、「牛首紬」として国の伝統的工芸品に指定されています。

※掲載の情報は取材時のものです。お出かけの際はあらかじめご確認ください。
※ご紹介記事の休日は、GW・夏期・年末年始・冬期等を省略しています。また、入館料等は大人1名の料金のみ記載していますのでご了承ください。

加藤手織牛首つむぎ

かとうておりうしくびつむぎ

すべて手作業のため、とても希少な牛首紬

糸づくりから機織りまで、全工程を手作業で行う工房。時代の流れとともに牛首紬の生産が縮小する中、昔ながらの手仕事の工程にこだわる1軒であり、伝統技術を今につないできた織元です。熱湯が入った釜に浮かぶ玉繭から器用に糸を引き出し、織機が並ぶ作業場では織子たちがリズミカルな音を立てながら手織り。予約をすれば工房の見学ができます。

↑牛首紬のがま口は、フォーマルにもカジュアルにも

↑玉繭約60個から糸をひきだし、緯（よこ）糸にします

↑糸にゆるく撚りをかける工程、のべつむぎ

↑糸の表情を見ながらの機織りは、高い技術が必要

076-259-2736
住 石川県白山市桑島イ1-26
休 土・日曜
時 8時～17時　料 見学無料

雪だるまカフェ

ゆきだるまかふぇ

白峰のおやつを食べて一服

↑ぼたもち350円とコーヒー400円

明治初期に建てられた古民家を利用したカフェ。地元名物の「ぼたもち」や、石臼で粉にする「かましいりこ」など素朴なお茶請けがおすすめ。数量限定の新メニュー、手取川ダムカレーも好評。

↑重要伝統的建造物群保存地区にある

076-259-2071
住 石川県白山市白峰イ75
休 木曜
時 11時～15時、17時～21時
料 おろしうどん600円、手取川ダムカレー1500円

歴史に翻弄された白山下山仏を安置

↑神仏分離の歴史を伝える下山仏と泰澄大師の像

↑白山信仰に関わる絵図など寺宝も多い

林西寺

りんさいじ

真宗大谷派、阿弥陀如来が本尊の古刹。明治初期の神仏分離に伴い、平泉寺の領域だった白山の山頂一帯が現白山市に帰属されたため、麓に下ろされた仏像や仏具を展示。泰澄大師が開いた白山信仰の歴史や文化など広く紹介するとともに、境内の白山本地仏堂には、国指定重要文化財の銅造十一面観世音菩薩立像など7体と泰澄大師坐像を安置しています。

076-259-2041
住 石川県白山市白峰イ68
休 火曜
時 8時～16時（1月～3月は10時～15時）
料 拝観料400円

井波

富山

井波彫刻の原点で、北陸における浄土真宗の拠点

江戸時代より続く木彫の里を散策

浄土真宗大谷派の北陸の一大拠点「井波別院瑞泉寺」の門前町として栄えた井波。参道の八日町通りを歩くと、コンコンとノミを叩く音が通りに響きわたるほど、彫刻工房が軒を連ねます。これは江戸中期に焼失した伽藍再建のため、京都より御用彫刻師が派遣され、井波の大工に技を伝えたのが始まり。現在も200人ほどの彫刻師が活躍し、一流彫刻師のもとでは、全国から集まった若者が修業をする姿も見られます。ノミの音が響く情景は「日本の音風景100選」にも認定されています。

石畳の通りには彫刻工房のほか、「蕎麦懐石松屋」などの飲食店やみやげ店も並びます。また、随所にさまざまなポーズの木彫ネコがおよそ30匹も潜んでいて、探すのも楽しみ。こんなユニークな作品を生み出す彫刻師の技をしっかりと見届けるなら「井波彫刻総合会館」へ。緻密な技のレパートリーの豊富さに驚きます。

東本願寺、北陸エリアの大拠点

↑山門にある龍の彫刻は、京都の前川三四郎の作と伝わる

↑総ケヤキ造りの真宗寺院建築の山門。各所に彫刻文様が施されている

井波別院 瑞泉寺

いなみべついん ずいせんじ

建立は明徳元年(1390)。江戸中期から明治初期に3度の大火に遭い、現在の本堂は明治、太子堂は大正の再建で、いずれも北陸の木造建築物では最大級。再建にあたって京都の本願寺よりお抱え大工が派遣され、井波の大工が技を学びました。山門の「雲水一疋龍」、式台門の「獅子の子落とし」など、伽藍のいたる所に井波彫刻の傑作を見ることができます。

0763-82-0004 住富山県南砺市井波3050
休無休 時8時30分～16時30分 料拝観500円

↑太い柱など風格ある荘厳な伽藍

国指定伝統的工芸品の技を見る

↑展示室は瑞泉寺にちなみ寺院空間をイメージ

井波彫刻総合会館

いなみちょうこくそうごうかいかん

↑道の駅井波「いなみ木彫りの里創遊館」に隣接

らん間やつい立、獅子頭、天神様、現代彫刻など200点以上を展示・販売。手彫りの繊細な美しさや木の風合いなど、温もりとやさしさにあふれた木彫作品を見学できます。イギリスの建築家が設計した外観もユニーク。

↑獅子ガチャ 500円でミニ獅子頭をゲット

0763-82-5158
住富山県南砺市北川733
休第2・4水曜(祝日の場合は翌日)
時9時～17時(入館は～16時30分)
料入館500円

手打ちにこだわる 実直なそばを堪能

蕎麦懐石 松屋

そばかいせき まつや

↑手打ちさらしな天せいろ1800円

↑単品の蕎麦みそと組み合わせても

↑駐車場はないので交通広場駐車場を利用(有料)

八日町通りにある大正元年(1912)創業の老舗で、古民家を改装した店内は民芸調の雰囲気。そばの実を殻ごと挽く田舎、殻をむいて挽くせいろ、実の芯のみを使うさらしなの3種を用意。手打ちにこだわり昔ながらのダシの味を受け継いでいます。蕎麦懐石は予約制。

0763-82-0047 住富山県南砺市井波3599 休不定休
時11時～14時、17時～20時
料だし巻き玉子550円、手打ち田舎蕎麦1300円、正太郎懐石2700円

かずら橋

福井

池田町
いけだちょう

岐阜県境に位置、能楽が盛んな歴史の町

大自然に癒され 田舎を満喫散歩

周囲を山に囲まれた山間部。豪雪地帯としても知られ、大野市とを結ぶ道路は冬期閉鎖に。一方、岐阜県揖斐川町とを結ぶ国道417号の冠山峠道路は2023年11月に開通し、約1時間も早くなったそう。町の9割が森林であり、奥山を存分に生かしたツリーピクニックアドベンチャーいけだは、メガジップライン、バーベキュー、ログハウスなど家族連れやアウトドア派に大人気です。

そんな池田町の観光の目玉は、足羽川に架かる「かずら橋」。天然のツルをからませた昔ながらの風景は映えスポットに。すぐそばには、伝統芸能の能楽が盛んな池田町ならではの「能面美術館」があります。ランチにはおもちの専門店「おもちの母屋」のほか、地元産蕎麦を使用する蕎麦屋が数軒あり、「そば処一福」は通に知られる1軒です。「道の駅オアシス」では、テラスでのんびりと癒しの時間を満喫できます。

道のオアシス フォーシーズンテラス

みちのおあしす ふぉーしーずんてらす

川沿いに降りて 散策も楽しめる交流施設

2024年4月、国道417号沿いにオープンした観光交流施設。足羽川と緑濃い森林に囲まれています。木をふんだんに使った建物に入ると、川に向かってカウンター席が設けられていて、テラスカフェではドリンクやおにぎり、カレーなどを提供。特産品販売コーナーもあります。屋外には川と山を眺めるリバーテラスがあり、川では水遊びも可能。

↑センターハウスでは農作物を使った加工品などを販売

↑山の緑や川の流れをのんびり眺められるウッドデッキ

0778-44-6060
住 福井県池田町志津原15-1
休 木曜（祝日の場合は営業）
時 9時～17時（フードは11時～14時30分LO）
料 うららの米定食780円、カレー1200円、ホットコーヒー380円

そば処一福

そばどころいっぷく

塩だしの味を求めて 全国からファンが通う

↑おろしそば塩だしは目からうろこの味わいで必食

↑座敷とテーブル席がある

↑どっしりとした風格ある構え

おろしそばのだしは3タイプ、塩、醤油、生醤油があり、少し太めの麺に良く合います。なかでも塩だしは、初代が5年かけて納得のいく味に仕立てたもの。現在は3代目がその味を守り続けています。まろやかなコクが特徴で、地元産のそばと大根、天然ワサビ（+50円）との相性もぴったり。特注で誂えるシンプルな越前焼の器にも注目です。

0778-44-6121　住 福井県池田町稲荷34-24-1
休 火曜（祝日の場合は翌日）
時 11時～15時（そばがなくなり次第終了）
料 塩だし、醤油だしのおろしそば各800円

能面美術館

のうめんびじゅつかん

能楽の里にあり、約100面を展示

「水海の田楽能舞」が、国の重要無形民俗文化財に指定されている池田町は能楽が盛ん。古い面も多く残り、大勢の能面師が活躍したそう。館内には能面師が打った面を展示するほか、面打ち教室も開催。全国から愛好家が訪れています。

↑館内ではさまざまな表情の面が見られる

0778-44-7757
住 福井県池田町志津原17-2
休 火曜（祝日の場合は翌日）
時 10時～16時（土・日曜、祝日は～17時）
料 入館300円

おもちの母屋

おもちのままや

お母さん手作りの昼膳を目当てに

池田町産のもち米で毎朝つく餅を使ったとち餅やよもぎ餅をはじめ、おはぎやわらび餅などを製造販売するおもちの専門店。池田町でとれる季節の野菜や山菜を盛り込んだ昼膳が人気で、メインのおこわが月ごとに替わるので楽しみ。

↑人気店なので週末は待つ覚悟で

←月替りのおこわ、ミニ雑煮、季節の天ぷらなどが付く季節のお昼膳

0778-44-8338
住 福井県池田町稲荷37-8-1
休 月曜
時 11時～15時30分（ランチは～14時）
料 季節のお昼膳950円、雑煮535円、おしるこ495円

福井

小浜と京都を結ぶ若狭街道最初の宿場町 熊川宿

くまがわじゅく

中ノ町

下ノ町

中ノ町

江戸時代の風景にタイムスリップ

若狭湾でとれた魚介を京都に運ぶために利用された若狭街道。主に浜塩をした鯖を運んでいたため鯖街道とも呼ばれていました。その宿場町として賑わったのが熊川宿で、風情ある町並みは国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。旧道にそって上ノ町、中ノ町、下ノ町と８００mほど続き、趣深い建物が並びます。平成27年（２０１５）には、熊川宿を含む鯖街道が「～御食国若狭と鯖街道～」として日本遺産に認定されました。すぐそばにある道の駅若狭熊川宿に車を停めて、のんびり歩いてみましょう。

宿場内には江戸や明治期の建物が並び、昔ながらの用水路が流れて日本情緒たっぷり。かつての関所を復元した「熊川番所」、旧逸見勘兵衛家、若狭街道熊川宿資料館、「与七」など見どころも点在。地元名物の鯖寿しや葛スイーツの飲食店、みやげ店も並び、楽しい散策を満喫。

Saba*Cafe

さば＊かふぇ

道の駅熊川宿の前、国道303号を挟んだ向いにあるカフェで、鯖街道に位置することから鯖にちなんだオリジナルメニュー、サバサンドを考案。フランスパンに分厚いサバフィレとタマネギなどの野菜、辛味を効かせた特製のマヨネーズソースをサンド。クセになる味わいです。コーヒーも美味しいと評判で、国道を走るライダーたちにも人気のカフェです。

↑サラダ、ポテト、ドリンク付のサバサンドセットは1800円

サバとフランスパンの相性ぴったり

↑鯖の文字が見える外観

電 0770-62-9048　住 福井県若桜町熊川12-16-2
休 火・水曜、ほか不定休あり　時 11時～15時30分LO
料 サバサンド1450円、サバサンド丼1350円

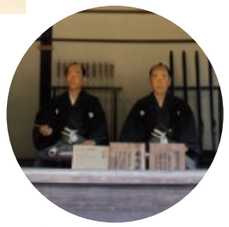
熊川番所

くまがわばんしょ

江戸時代の番所を復元

↑一部の部材と土壁を再利用している

電 0770-62-0330
住 福井県若狭町熊川18-2
休 火・水・金曜
（祝日の場合は開館）
※冬期変動あり
時 10時～16時
※冬期変動あり
料 入館50円


↑当時の様子がうかがえる

番所の役目が終わり、民家として使われていた元番所を復元。往時は町人が交代で番をしていたという。今は内部に見張り役の人形が座っていてドッキリ。役人が使う、やり・さすまたなどの道具類も展示しています。

まる志ん

まるしん

若狭名物、葛スイーツと鯖寿しの茶店

↑ソフトクリームとの相性ばっちり！葛もちパフェ 900円

↑つくりたての葛きり1000円は特製黒みつをかけて

↑黄土色の壁が印象的な土蔵の建物

中ノ町に位置。地元名物を取りそろえており、本物にこだわる店。極上の本葛を使い注文を受けてからつくる葛もちや葛きりは、ぷるんとした食感・味ともに絶品。鯖寿しは冷凍をいっさい使わず、国産の鮮度のいい生鯖のみを使用。本葛を混ぜた麺を使う、そばやうどんもぜひ!

電 0770-62-0221　住 福井県若狭町熊川39-11-1
休 水曜　時 10時～15時30分LO
料 葛もち700円、鯖寿し1本3500円、葛バニラソフト400円

与七

よしち

散策に疲れたらひと息つこう

下ノ町（しもんちょう）にある古民家を改修した熊川宿体験交流施設。座敷で休憩できるほか、トイレも備えています。与七とはかつての親孝行息子の名前だそうで、区民の公募で決定。区民がつくる趣味の作品も展示されています。

↑ホッと落ち着ける座敷でひと休み

電 0770-45-9111
（若狭町観光商工課）
住 福井県若狭町熊川36-1
休 無休
時 9時～17時（変動あり）
料 入館無料

富山

城端

じょうはな

善徳寺の門前町であり、城端絹で栄えた町

越中の小京都とも呼ばれた風情の町

2本の川に挟まれた丘陵地にあり、坂道が多い城端。室町時代末期に浄土真宗大谷派「城端別院善徳寺」が築かれ、門前町として栄えました。往時の面影を残す縦格子と瓦屋根の町家や石畳の道など、ノスタルジックな町並みが見られます。また、城端は絹織物の産地としても知られ、かつては絹織物の原料となるかいこ市が開かれていました。近隣の農村で育てたかいこを荷車やかごを担いで売りに行き、金沢市や白山市からも歩いて運んだそうです。最盛期には350軒以上あった織工房ですが、現在は「松井機業」1軒のみとなりました。

観光としては、まず「城端別院善徳寺」へ。すぐそばには国指定重要無形民族文化財の城端曳山祭を紹介する「城端曳山会館・土蔵群蔵回廊」があり、ここで古い町並み散策マップを入手。ランチには、フレンチの「オーミリュードゥラヴィ」がおすすめです。

城端別院 善徳寺

じょうはなべついん ぜんとくじ

永禄2年(1559)に蓮如上人が開基したと伝えられます。境内には山門、本堂、鐘楼堂、御殿、太鼓堂などを配置。本堂では毎朝6時30分～、14時～のお勤めが行われ、その時間になるとお経と法話を楽しみに地元の人が集まります。宿坊の宿泊については要予約。

↑宝暦9年(1759)に再建された、重厚な本堂

↑龍の彫刻など優美で力強い彫刻が施された山門

地元に愛される
真宗大谷派の古刹

0763-62-0026
住 富山県南砺市城端405
休 無休 時 5時～17時
料 境内無料
(院内拝観500円、9時～16時、要予約)

松井機業ショールーム

まついきぎょうしょーるーむ

明治10年(1877)創業。ここで生産される絹織物は、節がある玉繭の糸で織り上げているため、ところどころがこぼこしており「しけ絹」と呼ばれます。その風合いが個性的であり魅力的。商品はショールームで購入が可能です。

↑絹紗ストール1万8700円

↑工場見学も受付けている

0763-62-1230 住 富山県南砺市城端3393
休 土・日曜、祝日 時 13時～17時 料 美髪枕カバー4950円

独特の存在感を放つ
しけ絹の織り元

オーミリュードゥラヴィ

おーみりゅーどぅ らづぃ

↑季節の野菜の前菜などディナーの一例

金沢から城端に移転して7年目、フランス料理がベースのカジュアルフレンチのスタイルは変わりません。契約農家の農園や実家の畑の朝どれ野菜など、その日の野菜をメインに即興的に献立を考え、素材そのものの味を最大限に引き出す調理方法も同じです。その日によって異なる野菜ジュースも好評で、野菜大好きな根強いファンが通っています。

0763-62-2733
住 富山県南砺市城端418-5
休 不定休
時 12時～14時LO
18時～21時LO
料 ランチ3300円～、
ディナー5500円～

野菜のおいしさを
五感で味わえる料理店

城端曳山会館・土蔵群蔵回廊

じょうはなひきやまかいかん・くらかいろう

300年以上の伝統を誇る祭の曳山や庵屋台を展示。城端塗や井波彫刻、金箔など、工芸の見事な技を施しており絢爛豪華。棟続きに明治の土蔵を再生した蔵回廊があり、歴史資料などを展示しています。

←夜には曳山も庵屋台も提灯山となり幻想的

0763-62-2165
住 富山県南砺市城端579-3
休 無休 時 9時～17時
料 入館520円

ユネスコ無形文化遺産に
登録された城端曳山祭